

株主の皆様へ



代表取締役社長

黒田 浩史

■ごあいさつ

株主の皆様には、格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに当社第71期中間期(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)の事業の概況をご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後ともよろしくご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年12月

■当第2四半期連結累計期間の概況

当該期間におけるわが国経済は、中国経済の成長鈍化による世界経済への影響や消費税増税等による国内消費の縮小が懸念されたものの、政府による財政・金融政策の効果等により回復基調で推移いたしました。

こうした状況下において、当社グループの主要顧客である半導体・液晶市場に加えて自動車市場も堅調に推移し、受注高は7,255百万円(前年同期比1,603百万円、28.4%増)、売上高は6,658百万円(前年同期比1,229百万円、22.7%増)となりました。利益面に関しては、前年同期に比較して増収となったものの、経常損失額を縮

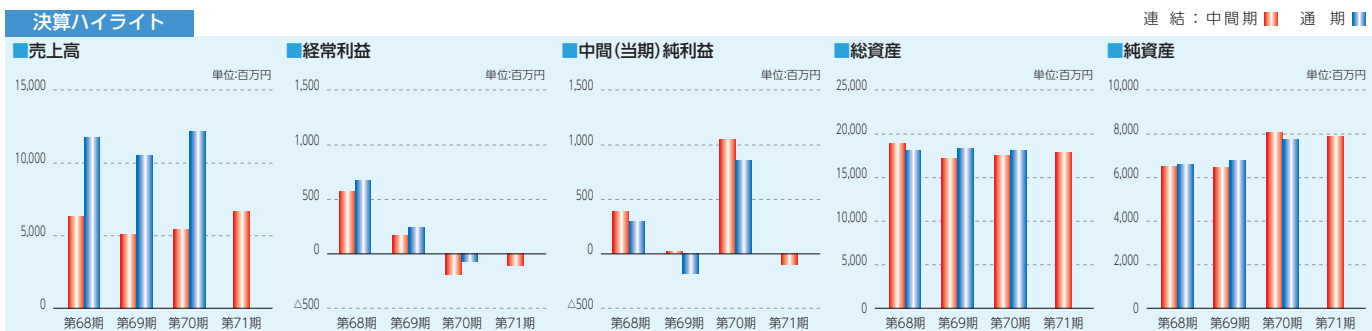
小するレベルでの回復結果に止まりました。主な理由としては、利益率の低い商品の売上が増加したこと、人件費、電力料等の増加を主因とし売上原価が前年同期比1,114百万円増加したこと、販売費及び一般管理費が前年同期比75百万円増加したこと等に加え、8月に実施した基幹情報システムの全面刷新により生産面で混乱が発生、受注や売上にも影響を及ぼし、収益の足を引っ張る要因となりました。結果として、経常損失106百万円(前年同期は経常損失187百万円)、四半期純損失96百万円(本社土地売却益を計上した前年同期は四半期純利益1,047百万円)となりました。

■通期の見通し

全社的に受注残は高水準で推移しており、新基幹情報システムの導入に伴う混乱が収束しつつあることから第3四半期以降は売上の改善を見込んでおります。

当社グループの通期の連結業績は、売上高13,900百万円、営業損失55百万円、経常利益150百万円、当期純利益40百万円と予想しております。

業績の早期回復を目指し、構造改革と経営基盤の強化、海外展開、新商品の開発投入を今後一層加速してまいります。株主の皆様には何卒ご理解ご支援のほどよろしくお願いいたします。



■ 駆動システム

主要顧客である半導体・液晶市場が堅調に推移したことにより、利益面での企業買収によるのれん償却等の影響はあったものの、増収増益となりました。

当セグメントの受注高は3,357百万円（前年同期比885百万円、35.8%増）、売上高は3,019百万円（前年同期比618百万円、25.8%増）、営業利益は52百万円（前年同期比5百万円、11.3%増）の結果となりました。

売上高 **3,019** 百万円

■ 医療分析分野へ参入加速

当社は成長市場への展開を積極的に進めております。平成26年6月、「機械要素技術展」に出展するとともに、同時期に開催された「医療機器開発・製造展」および平成26年10月には昨年に続き、「メディカルクリエーションふくしま2014」に出展いたしました。医療分析分野への参入と市場開拓を目指し、医療機器を開発・製造するためのあらゆる技術を集めたこれらの展示会にて、活発な商談を行いました。



機械要素技術展の様子

■ 金型システム

新型ハイブリッド車向けのモータコア受注が好調だったことにより、受注高・売上高はそれぞれ増加いたしました。一方で、相対的に利益率の低い商品の売上が増加したことに加え、前年同期には営業利益を計上していたマレーシアの子会社が大口顧客の生産低迷により売上が大幅に減少したこと等により、損失が拡大いたしました。

当セグメントの受注高は1,851百万円（前年同期比618百万円、50.1%増）、売上高は1,729百万円（前年同期比465百万円、36.9%増）、営業損失は178百万円（前年同期は営業損失164百万円）の結果となりました。

売上高 **1,729** 百万円

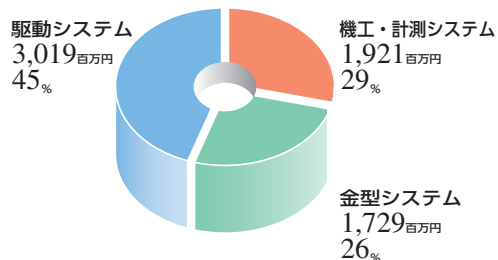
■ モータコアの世界規模での市場開拓



CWIEMEの様子

平成26年6月にドイツ ベルリンで、9月から10月にかけてアメリカ シカゴで開催された、モーター関連の展示会「CWIEME」に出展し、モータコア関連技術の総合力を欧米市場にアピールいたしました。平成27年1月に開催されるアジア最大級の電気自動車・ハイブリッド自動車向け展示会「EV・HEV駆動システム技術展」にも出展を予定しており、世界的ラミネーションメーカーであるEuro Groupとの協力関係も活用し、高効率モータコアの世界規模での市場開拓を図ってまいります。

セグメント別売上構成比



各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含めて表示しております。

■ 機工・計測システム

ツーリング事業譲渡による生産終了商品の集中的売上が好調な自動車業界向けのビジネスに支えられ、受注・売上は堅調に推移いたしました。しかしながら、構造改革によるコスト削減効果は今後実現されることもあり、利益面では損失を縮小するレベルとなりました。

当セグメントの受注高は2,058百万円（前年同期比103百万円、5.3%増）、売上高は1,921百万円（前年同期比148百万円、8.4%増）、営業損失は56百万円（前年同期は営業損失119百万円）の結果となりました。

売上高 **1,921** 百万円

■ 新商品のご紹介

平成26年10月から11月にかけて開催された「日本国際工作機械見本市 (JIMTOP2014)」に出展し、ハイドロリックツールや機上計測装置等の要素機器とともに、小型ハイレシプロ研削盤や小型精密成形平面研削盤等の工作機械の新商品を発表し、多数のお客様とお引き合いをいただきました。また、世界最高精度を達成した超精密表面形状測定装置（当社商品名：ナノメトロ）の新モデルの開発を完了いたしました。当社は今後もお客様に必要とされる技術力の向上を図り、計測から加工までのソリューションを一貫してご提案してまいります。



小型精密成形平面研削盤 GS-30HL

■ 旭分工場にて太陽光発電を開始

太陽光発電（メガソーラー）事業用のために、当社が千葉県旭市に所有する土地を株式会社クローバーエナジー殿に賃貸いたしました。平成26年7月に設備工事が着手しており、発電出力は約1.3メガワットで12月から発電を開始する予定です。この事業により、遊休不動産の有効活用を図り安定的な賃貸収入を得ると同時に、クリーンな再生可能エネルギーを作り出すことで社会に貢献してまいります。



メガソーラー設備（千葉県旭市）

■ ハイドロリックツール製造部門の移転・長野工場プレスラインの構築

平成26年12月末日までを目処に、ハイドロリックツール製造部門の長野工場から富津工場への移転を進めております。要素機器に関わる経営資源を富津工場に集約し、ハイドロリックツールの増産体制を整備するとともに、生産性やコスト競争力、新商品の開発力の強化を図ってまいります。なお、同部門の移転によって生じた長野工場のスペースは、プレスラインの構築と関連工程の拡充を図り、ハイブリッド自動車の基幹部品であるモータコア商品のマザー工場として活用してまいります。

■ 経営基盤の強化

平成26年6月に開催された定時株主総会において、会計監査人として太陽ASG有限責任監査法人（平成26年10月より太陽有限責任監査法人に名称を変更）が選任され就任いたしました。同監査法人は世界130か国以上に700か所以上の拠点を有するグラント・ソントン インターナショナルのメンバーファームであり、当社が進めているグローバル展開へ対応する体制を整えております。また、7月からは新人事制度の運用を開始し、成果・貢献度に応じた公正な人事処遇により、従業員の成長支援を図るとともに、技能伝承に向けた取組も継続して展開しております。さらに、迅速な経営判断を可能にするために8月より新基幹情報システムの稼働を開始する等、経営基盤の強化を推進しております。

四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期末 平成26年9月30日現在	前 期 末 平成26年3月31日現在
(資産の部)		
流 動 資 産	7,857	7,685
固 定 資 産	9,929	10,352
有 形 固 定 資 産	5,920	6,178
無 形 固 定 資 産	1,799	1,824
投 資 そ の 他 の 資 産	2,209	2,349
資 産 合 計	17,786	18,037
(負債の部)		
流 動 負 債	5,004	4,750
固 定 負 債	4,919	5,557
負 債 合 計	9,924	10,308
(純資産の部)		
株 主 資 本	6,225	6,102
資 本 金	1,875	1,875
資 本 剰 余 金	1,451	1,451
利 益 剰 余 金	2,906	2,784
自 己 株 式	△7	△7
その他の包括利益累計額	1,439	1,411
その他有価証券評価差額金	501	409
土 地 再 評 価 差 額 金	790	801
為 替 換 算 調 整 勘 定	404	472
退職給付に係る調整累計額	△256	△271
少 数 株 主 持 分	197	214
純 資 産 合 計	7,861	7,729
負 債 ・ 純 資 産 合 計	17,786	18,037

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期累計期間 平成26年4月1日～ 平成26年9月30日	前第2四半期累計期間 平成25年4月1日～ 平成25年9月30日
売 上 高	6,658	5,428
売 上 原 価	5,297	4,183
売 上 総 利 益	1,360	1,245
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	1,572	1,497
営 業 利 益	△211	△251
営 業 外 収 益	221	193
営 業 外 費 用	116	129
経 常 利 益	△106	△187
特 別 利 益	2	1,284
特 別 損 失	1	247
税 金 等 調 整 前 四 半 期 純 利 益	△105	849
法 人 税 ・ 住 民 税 及 び 事 業 税	29	27
法 人 税 等 調 整 額	△23	△225
少 数 株 主 損 益 調 整 前 四 半 期 純 利 益	△111	1,047
少 数 株 主 利 益	△15	0
四 半 期 純 利 益	△96	1,047

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期累計期間 平成26年4月1日～ 平成26年9月30日	前第2四半期累計期間 平成25年4月1日～ 平成25年9月30日
営 業 活 動 に よ る キャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	427	△14
投 資 活 動 に よ る キャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	△126	2,431
財 務 活 動 に よ る キャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	△302	△2,147
現 金 及 び 現 金 同 等 物 に 係 る 換 算 差 額	△4	13
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 増 減 額	△6	283
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 期 首 残 高	2,242	1,948
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 四 半 期 末 残 高	2,236	2,231

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

■会社の概要

商号 黒田精工株式会社
 本店 神奈川県川崎市幸区堀川町580番地16
 創業 1925年(大正14年)
 資本金 18億75百万円
 従業員数 428名

■連結対象会社の状況

連結子会社	持分法適用関連会社
クロダインターナショナル株式会社	株式会社ゲージング
クロダプレジジョンインダストリーズ(M) (マレーシア)	日本金型産業株式会社
平湖黒田精工有限公司 (中国)	株式会社TKG
平湖黒田捷納泰克商貿有限公司 (中国)	
永昇電子株式会社	
韓国黒田精工株式会社	
KURODA JENA TEC HOLDINGS LTD. (英国)	
Jenaer Gewindetechnik GmbH (ドイツ)	
Kuroda Jena-Tec, Inc. (米国)	
Jena Rotary Technology Ltd. (英国)	

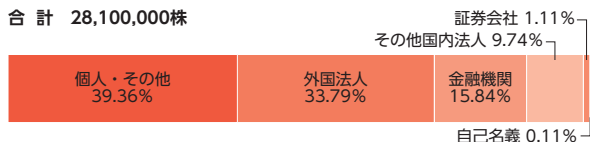
■当社グループの主要な事業

セグメント	主要製品
駆動システム	精密研削ボールねじ、転造ボールねじ、ボールねじアクチュエータ、XYステージ、ガイド、ギア
金型システム	積層精密プレス型、モータコア型、精密金属プレス商品
機工・計測システム	保持工具、ゲージ、平面研削盤、超精密鏡面研磨装置、超精密表面形状測定装置、電子機器、コンプレッサ、スピンドル

■株式の状況

発行可能株式総数 74,800,000株
 発行済株式の総数 28,100,000株
 株主数 2,402名

■所有者別株式分布状況



■大株主

株主名	株式数 (千株)	持株比率 (%)
パーカー ハネフィン マニュファクチャリング ユーケー リミテッド	9,400	33.49
株式会社みずほ銀行	1,381	4.92
黒田 浩史	1,169	4.16
黒田精工取引先持株会	832	2.96
株式会社横浜銀行	748	2.66
三井住友信託銀行株式会社	616	2.19
朝日生命保険相互会社	500	1.78
簡 文治	441	1.57
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	412	1.46
日本生命保険相互会社	377	1.34

* 持株比率は自己株式 (33,289株) を控除して計算しております。

■株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 毎年6月下旬
 基準日 毎年3月31日
 定時株主総会・期末配当
 公告方法 電子公告により、当社のホームページに掲載します。
<http://www.kuroda-precision.co.jp/>
 ただし、やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載します。
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 特別口座の 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

株式に関する手続きについて

○証券会社等の口座に登録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先
郵便物等の発送と返戻に関するご照会	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
支払期間経過後の配当金に関するご照会	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
株式事務に関する一般的なお問合せ	TEL 0120-782-031 (フリーダイヤル)
上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

○特別口座に登録された株式

特別口座に登録されている株式につきましては、特別口座のままでは売買できません(単元未満株式を除く)。様々なお手続きを円滑に行うためにも証券会社の口座への振替申請をお願いいたします。
 株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行株式会社が口座管理機関となっておりますので、下記へお問合せください。

お問合せ先 0120-782-031 (フリーダイヤル)

[手続き書類のご請求方法]

・インターネットによるダウンロード <http://www.smbj.jp/personal/agency/index.html>

黒田精工株式会社

本社 / 〒212-8560 神奈川県川崎市幸区堀川町580番地16
 TEL / 044-555-3800 (代表) FAX / 044-555-3524
<http://www.kuroda-precision.co.jp/>

